

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 2 1

開催地：八代市代陽校区

平成 19 年 8 月 28 日（火）、八代市代陽校区（会場：やつしろハーモニーホール）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

市内	17 名
市外	4 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・報告会に出た質問・意見は今後どのような形で活用されるのか。
- ・H18 年の川内川の洪水の時に降った雨が球磨川に降ったら、横石で 12,000m³/s 流れるとのことだが、実際にそのような規模の雨が降ったら基本高水流量を超えてしまうが、どう対応するのか。具体的にダムでどのくらいカットするのか。
- ・現状で横石地点で 9,900m³/s の洪水を流すことができるか。
- ・ダムを造った場合には、萩原あたりの水位はどのくらい下がるか。
- ・基本高水が高いほどいいと思うが、整備にはいろいろな方法があり、球磨川の自然の価値をどのくらい認めるかが工事の基本的な考え方になるのではないか。自然の価値を認めないと意味が無い。

【球磨川の治水対策について】

- ・市房ダムが出来た S35 以降もダムが出来たのにも関わらず洪水の数が増えているのは何故か。
- ・S40 年以降に萩原の堤防が破堤したことはあるのか。萩原堤防の付近では高田・豊原が浸かったという認識だが、そういうことがあったのか。高田が浸かったなら今のスポーツ公園のところなのか。
- ・S40 年の水害で萩原の堤防が破堤したのは管理ミスだと考えている。堤防の一部に穴があいていたのを見逃していたのが一番の原因ではないかと思う。
- ・7、8 年前に萩原堤防の現地立会で、S40 年洪水時より水位が 10cm 上がると危ないと聞き、恐ろしくてびっくりしたことがある。
- ・S57 年の水害では、瀬戸石でも駅舎が根こそぎやられるなど相当被害がひどかった。地元の方の話では、もう既にダムが危ないという時に一度にゲートを上げたため、水が滝のように流れたと聞いている。瀬戸石ダムの管理は国土交通省とは別だと思うが、ダムの開閉についてなにか指導をしているのか。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

